

放射線治療部門

昨年より放射線治療科が新設、新病院建設に伴い放射線治療機器も更新され、最新機種（Varian社製 TrueBeam）となりました。X線は通常線量率の4, 6, 10MVと高線量率モードの6, 10MVの計5本、電子線5本の構成にて、多様な照射が可能となり、照射時間も大幅に短縮されます。更に6軸可変の治療寝台と呼吸同期システムも併せて導入、より高精度の治療が可能となりました。また、診断部門にてCTとMRIが増設、PET/CT、SPECT/CTも運用開始となり、治療前評価や計画、治療効果確認においても充実した体制が整っています。

放射線外照射の他は、密封小線源治療室も拡充され、前立腺癌への密封小線源治療もより快適な環境で提供できるようになっています。

その他、有痛性骨転移に対する塩化ストロンチウム投与、悪性リンパ腫へのイットリウムを用いた標識抗体療法、前立腺癌骨転移への塩化ラジウム投与もこれまで同様に対応可能です。

地域の皆様に貢献すべく、より質の高い放射線治療を目指してスタッフ一同頑張っております。



化学療法センター・免疫統括医療センター

新病院移転に伴い、外来化学療法室は『化学療法センター・免疫統括医療センター』へと名称を変更しました。今まではがん患者さんと胃腸科の患者さんが利用していましたが、今後は院内で分子標的薬を使う患者さんも多く受け入れることとなりました。病床数は10床から15床へと増床し（将来的に29床まで拡大予定）、広い空間で治療を受けていただけます。また、多くのリクライニングチェアを新調し、長時間でも座り心地が良くなりました。部屋は北向きになりますが、窓が大きく明るいお部屋です。患者さん一人一人の治療スペースも少し広くなり、手元には間接照明をつけたり、ナースコールを設置したりと過ごしやすい環境となりました。

私たちは当センターで治療を受けられる患者さんに安全で確実な治療を提供し、気持ちよく過ごしていただける環境を目指しています。また、治療環境だけでなく看護師・薬剤師もあたたかく患者さんを迎え入れ、副作用対策について一緒に考えていきたいと思えます。私たちと一緒に治療を乗り越えていきましょう。



Matsuyama Red Cross Hospital

Cancer News

Doctor's Voice

乳がん（乳腺外科）

“自分らしく生きる事が出来るために”

乳腺外科部長 川口 英俊

- + Team information がんサポートチーム
- + in Profile 臨床検査技師
- + What is...? がん地域連携パス
- + mrc Place 放射線治療部門
- 化学療法センター・免疫統括医療センター



<http://www.matsuyama.jrc.or.jp/cancer/>



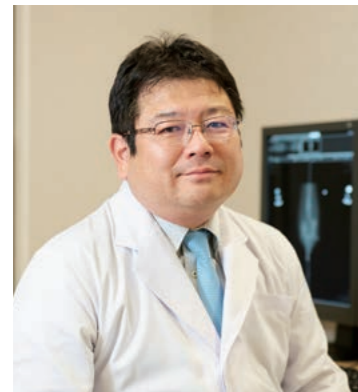
松山赤十字病院 がん診療推進室

〒790-8524 愛媛県松山市文京町1番地
TEL089-926-9630 FAX089-926-9614

Matsuyama Red Cross Hospital
Cancer News
SPRING 2018

Doctor's Voice

乳がん（乳腺外科）



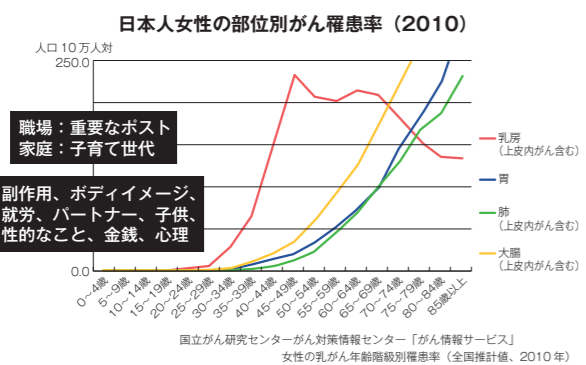
“自分らしく生きる事が
出来るために”

乳腺外科部長 川口 英俊

我々松山赤十字病院のプレストケアチームは、「乳がん」に罹患した患者さんが自分らしく生きる事が出来るために、今我々に何が出来るか？」をモットーに患者さんをサポートしています。患者さんは治療をするために生きているわけではなく、自分らしく生きる為に治療を受けて欲しい、そう願っているからです。図1は日本人女性の部位別がん罹患率を示しています。ピンクが乳がんを示していますが、45-59歳でそのピークを迎えます。この世代は仕事では、重要なポストに就く時期であり、家庭では子育て世代という事になります。よって、治療を完遂・継続するには、そして自分らしく生きる事が出来る為には他のがん患者さんに加えてより多くの支援が必要です。

- 1) 妊孕性（妊娠のしやすさ）の問題は最重要課題の一つと考えています。抗がん剤治療を受けると卵巣の機能が低下し、妊孕性が低下します。当院では妊娠・出産を希望する乳がん患者さんに対して、積極的に既婚者には受精卵凍結、未婚者には卵子凍結をお勧めしています。妊孕性温存に関する専門施設と連携をして、積極的にサポートしています。
- 2) 就労も重要な課題です。職を失うと、経済的理由で治療の完遂・継続が困難になります。乳がん

図1 治療を完遂・継続するにはあらゆる方面のサポートが必要であり、チーム医療がかかせない

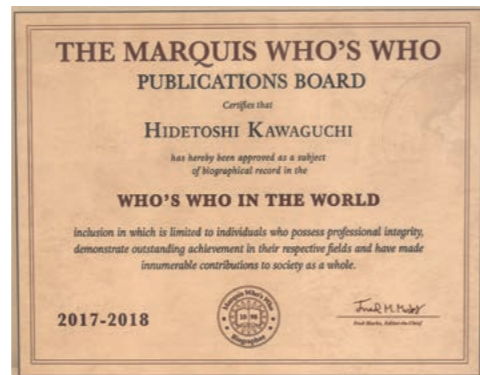


と診断された患者さんの約3割が離職しているという報告があります（CSR project がん患者の就労と家計に関する実態調査2010）。患者さんは治療に専念するために離職したと表現されますが、実はそうではなく心が一時的に弱くなる時期にいわば自暴自棄になって離職してしまうようです。私は告知の日に就労者には以下の3つの項目を伝えるようにしています。①辞職しようと思っても、その判断は先送りすること②再就職は非常に困難であること③会社側に退職を勧められた場合、私が会社の人事担当者と面談することも可能だということ。この試みを始めて4年になりますが、告知後早期に辞職する人はほとんどいなくなりました。

- 3) アピランス（外見）ケアを抜きに女性の自分らしさを語ることは出来ません。特に抗がん剤治療を受けると、髪や眉の脱毛、爪の損傷等に悩まされます。乳がん看護認定看護師を中心に「先輩乳がん患者さんからのメッセージ写真集の作成」、「ウィッグマップの作成」、眉の描き方のアドバイスなど治療前と変わらないアピランスを保つケアを行っています。

これからも我々に今何が出来るかを自問し、患者さんのサポートに取り組んで行きたいと考えています。

図2 Who's Who in the world®に選出されました。



※世界の著名人の略歴を掲載した年鑑の紳士録のひとつ

Team information

がんサポートチーム

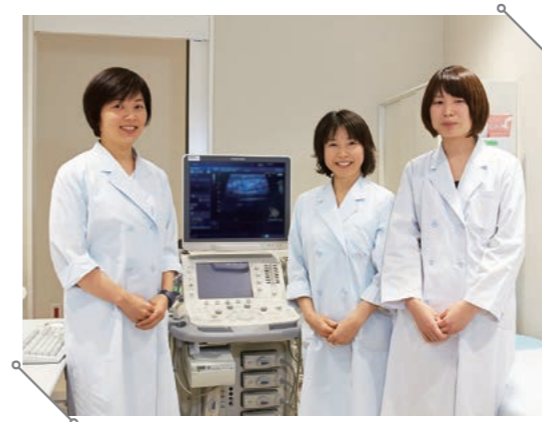
「緩和ケアって最期の時に受けるものでしょうか？」とよく聞かれます。緩和ケアは、がんと告げられた時から、誰でも受けられるケアです。緩和ケアを受けることで、患者さんやご家族のつらさを緩和し、より自分らしく治療や療養生活を送ることにつながります。

当院には、がん患者さんご家族の苦痛な症状や気持ちのつらさを緩和し、QOL（生活・生命の質）の向上を目指して活動する『がんサポートチーム』があります。チームは身体症状担当医師・精神症状担当医師・がんの専門的知識を持つ看護師・薬剤師・臨床心理士・リハビリスタッフで構成され、患者さん・ご家族にとってよりよい治療・ケアの方向性を考え、サポートしています。



in Profile

臨床検査技師（超音波検査士）



乳がんの検査には、主にマンモグラフィ検査と乳腺エコー検査があります。乳腺エコー検査を行っているのが私たち臨床検査技師です。

乳腺エコー検査は痛みや被爆の心配がなく、マンモグラフィでは異常を見つけにくい「高濃度乳房」という乳腺の密度の高い方にも有用です。ただし小さな石灰化の検出はやや不得意で、検査者の技量も結果に関わってきます。当院では「超音波検査士」という専門の資格を持った技師が担当し、より精度の高い検査を目指して日々自己研鑽に励んでいます。また医師・看護師・薬剤師など多職種で構成されたプレストケアチームの一員としてチーム医療にも積極的に参加しており、患者さんにとって最良の医療が提供できるよう、チーム全員で取り組んでいます。

担当技師は女性ばかりですので、検査に関して不安などあれば、お気軽に声をかけていただければと思います。

What is...?

がん地域連携パスとは…

がん患者さんを中心に、がん診療連携拠点病院と地域の医療機関（かかりつけ医）がそれぞれの役割を分担し、連携・協力して切れ目なく患者さんの治療を行う計画書の事です。この制度は、国が策定する「がん対策推進基本計画」に基づき実施しています。

患者さんの情報を共有することで、再発や合併症の早期発見と早期対応が期待でき、安全で質の高い医療を提供することが可能となります。がん診療連携拠点病院である当院では、精密検査や治療（手術、放射線治療、化学療法など）、節目の診察等を行い、かかりつけ医は患者さんの日常的な健康管理と検査・治療（内服薬の処方など）を行います。かかりつけ医を持つことで、患者さんにとっては待ち時間や通院時間の短縮、重複した検査・投薬による負担軽減になります。

当院の連携・連絡の窓口は「がん相談支援センター」です。お気軽にご相談・ご連絡ください。

